

ホタルの舞う里 郷土「霧島」を目指して

霧島市立霧島中学校ホタル部 (鹿児島県霧島市)

1. はじめに

霧島市立霧島中学校は鹿児島県霧島市の北部に位置している。1985年4月に旧霧島町立霧島中学校と同霧島東中学校が統合し、新設霧島中学校として発足した。また、2005年11月に旧霧島町と周辺1市5町が合併して霧島市となり、霧島市立霧島中学校となった。平成24年度で創立28周年を迎えた。

本校区は、日本最初の国立公園に指定された霧島・屋久国立公園である霧島山系の麓に位置し、雄大な景観がいたるところに開けている。原生林など自然に恵まれており、霧島川の清流と併せてまさに山紫水明の地である。

旧霧島町(現霧島市)では戦後農薬の散布や洗剤等で川が汚れ、ホタルもみられない状況にあったが、再びホタルを呼

びもどそうということになり、商工会、町観光課、駅前公民館の三者で協議し、ホタル委員会が発足した。

1974年頃に山口県豊田町商工会よりゲンジボタルの幼虫を分けていただき、放流するとその年よりホタルが見られるようになった。その後、1993年の水害や土地改良等の原因によりホタルの増減が繰り返されてきた。

この時期に、ホタルの保護を通して自然環境について考え、ホタルの飛び交う町にするための環境保護整備、幼虫の生育など、ホタルの里づくりの気運が高まり、自然環境について地域ぐるみで考えられるようになった。そして、2003年5月に旧霧島町「ホタルの里づくりの会」が発足した。



写真1. ホタル池づくり



写真2. ホタル池

2. 霧島中学校ホタル部の歴史

霧島中学校ホタル部は、1998年4月に、当時、本校教諭だった大木信剛先生（現鹿児島情報高校）が、「自然環境の保護」「生命の大切さを学ぶこと」そして「ホタルの飛び交う町づくり」を目的に発足した。翌年3月に、地域の水利組合や保護者の協力のもとに、学校敷地横を流れる用水路を活用した第1ホタル池が完成した。また、この年よりホタルの乱舞を観賞していただくことで、地域の方々にホタルや自然環境に関心を持ってもらうために「ホタルの夕べ」の第1回を開催した。

2000年6月には第2ホタル池も完成し、ホタルの自然孵化に向けての活動が本格的に始まった。

ホタル池の横には飼育施設があり、幼虫の孵化から放流直前の幼虫までの飼育を行っている。

ホタル部員は、年間を通じて活動の中

心を担っている。

3. ホタル部の活動

ホタル部の飼育活動は、飼育施設の沈殿槽の清掃から始まる。また、ホタル池の清掃を継続的に行い、藻の繁殖や泥の沈殿を防ぎ、カワニナの飼育に適する環境づくりを行う。また、水路の状況を定期的に確認し、特に水量については取水口（パイプ）の点検・調整を行う。

5月下旬から6月上旬には、毎年「ホタルの夕べ」を企画・運営する。

「ホタルの夕べ」の開催以降、特にこの時期に大切な活動の一つとしてホタル池の管理・清掃がある。用水路からの水にはたくさんの泥や砂が含まれており、放置しておくとホタル池に泥や砂が沈殿する。自然に生息している幼虫を傷つけないように注意しながら泥や砂を取り除く作業が大切である。

また、飼育ケースの幼虫には、ホタル



写真3. ホタル池の清掃活動



写真4. カワニナの餌やり

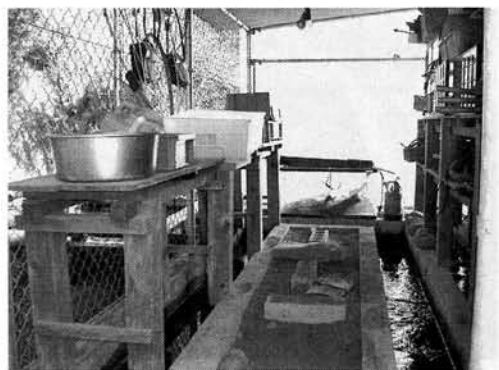


写真5. ホタルの飼育施設



写真6. 飼育室の清掃

池から餌であるカワニナを、幼虫の育成状況に応じて大きさを考慮しながら与えている。

特に夏場の飼育は注意を払う必要があり、夏季休業中は部員が輪番制で飼育・管理に努めている。以下は夏季休業中における飼育当番時の活動内容と留意点である。

【夏休みの活動内容】

- 1 カワニナ・クレソンの補充
- 2 取水口の管理
- 3 水槽の水替え

【留意点】

- ・ 始めにエアポンプの泡を出ないようにする。
- ・ 半分まで水を替える。
- ・ 替える水に幼虫がないか確認する。
- ・ 幼虫がいた場合は、スポイトで水槽に移す。
- ・ 新しい水を水槽に入れる際は、水槽のふたをしたまま入れる。
- ・ 最後にエアポンプの泡が出るようにする。
(泡が出ているか必ず確認してふたをしめる!!)

- 4 水草・藻取り

(1)「ほたるの夕べ」の開催

前述したように、毎年5月下旬から6月上旬の期間に、ホタル部の活動の成果として、また、郷土の自然・環境について考え、郷土のよさを体感してもらうために、保護者や地域の方々を対象とした「ほたるの夕べ」を開催している。

事前に、ホタル部はホタル池周辺の清掃、安全バリアードの設置、放送機器等の設置を行い、企画・進行を行っている。

当日は、ホタル部の創始者である大木信剛先生、「霧島ホタルの里づくりの会」の松迫昭三さんを招聘し、ゲンジボタルの生態や霧島の環境とホタルについて講話していただいている。毎年、大勢の方々が参加しており、当日のみならず、乱

舞の時期には連日ホタル池へ来られる姿が見られる。

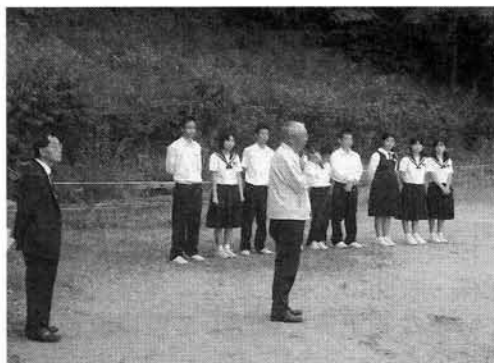


写真7. ホタルの夕べ

(2)「幼虫の放流会」の取組

12月上旬になると本校ホタル池で生育した幼虫を、地域の河川・用水路等に放流を行っている。「霧島ホタルの里づくりの会」と連携を図り、生徒の地域密着の意識を高揚させる目的で一緒に放流会



写真8. ホタルの幼虫の放流



写真9. 「ホタルの里づくりの会」との活動

を行っているのが特徴の一つである。

(3)「ホタルの里づくりの会」学習会

ホタルの生態や霧島のホタルの実態等を学び、今後の環境づくり・活動内容等についての学習会を行っている。講師には大木先生を招聘し、「ホタルの里づくりの会」会員を主に対象として行っている。

地域の用水路周辺の除草時期や水量の確保・夜間の公共照明等の理解、生態系に必要な要望等を確認して環境改善に努めている。

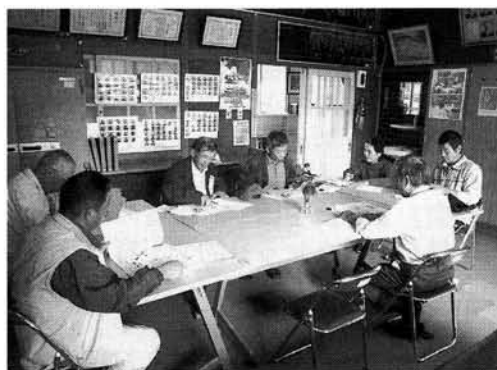


写真10. 学習会の様子

4. 今後の課題

今回、本校ホタル部の歴史や活動内容等について記述した。現在では、ホタル

部の存在や活動状況も地域へ定着してきており、近隣の宿泊施設や企業等から、ホタルの生育に向けた事前調査や相談、幼虫の譲渡の依頼相談等が増加してきている。また、地域住民が個人でホタルの飼育に取り組まれたり、校区内の多くの箇所にホタルの里の看板が設置されるようになり、地域の意識も高まってきている。本校ホタル部としても、活動状況の自発的な広報・宣伝や積極的な幼虫の譲渡等についてのあり方について検討していく必要がある。

さらには、卵から幼虫に育つ過程で、死滅する割合が高い時期もあり、水温や餌の与え方、水流の調整等について研究し、生存率の向上に努める事が必要である。

5. おわりに

これまでの取組の積み重ねの結果、現在、霧島中学校ホタル池の周辺には、自然の状態で飛び交うようになってきた。今後もホタル部の常時活動を活性化させ、増殖活動・保護に努めていきたい。

最後にこれまで本校ホタル部の活動を支えていただいている大木信剛先生をはじめとする歴代の先生方、「霧島ホタルの里づくりの会」の方々に感謝いたします。



写真11. 本校校舎玄関ロビーに設置してある「ゲンジボタルの一生」